

＜第6回 若林地域会議 会議録＞

日 時 令和5年9月22日（金） 19:00～20:30
場 所 若林交流館 多目的ホール
出席者 委 員 18名
事 務 局 吉澤副支所長、松原副主幹、川合主査、倉地主事
オブザーバー 太田市議

1 会長あいさつ〈省略〉

2 報告事項

(1) 第5回若林地域会議の会議録について〈省略〉

3 協議事項

(1) 諮問（第9次豊田市総合計画）について

① 説明

→事務局よりグループワークの進め方と今後の会議の方向性について説明

〈委 員〉若林地域会議として、答申を作成するために1月まで今後何をしていくのか。

〈事務局〉9月は「若林の理想の姿」を話し合う。10月は若林の理想の姿と9総とのギャップを洗い出し、出てきたものを9総のどの部分に落とし込むのかを話し合う。11月には答申書の案を作成し、文言の追加や修正等を行う。という流れにしていく。

〈委 員〉記載されている継承とはどういう意味か。

〈事務局〉現在若林地域であるイベント等で、今後も続いていくことで地域づくりの一環になるようなものを指していると考える。

〈委 員〉答申というとイベントのような具体的な話ではなく、抽象的なものを想定していたがどうか。

〈事務局〉最終的に1月に市長に提出する答申書は、抽象的なことに対して回答するものと考えているが、現状の9総の案のみを見て、話し合いをすることが難しいと考え、先ほど説明したような9月から1月のような流れを考えている。

〈委 員〉市長が区長会で説明した内容では、「発想の転換」「3つの変化」を意識したうえで、「ミライ実現戦略2030の方向性」の肉付けをしていくという話であった。よって「めざす姿」「まちづくりの基本的な考え方」については、答申として出しても、反映されることはない。

また、前回市長が会議に出席したときに「行政がリードするまちづくり」から「多様な主体が楽しむまちづくり」へという部分ができていないのではという質問があった。その回答として、行政側は予算を用意しているが、それを使っていないのは地域側ではないかと言われた。その使い方のような具体的な話を答申として出すべきではないのか。

〈事務局〉答申としては、様々な形があると思うので、そういった答申という方法もあると考える。若林版の9総と思ってもらえると良い。

② ③個人ワーク及びグループワーク

継承

- A 若林地域が若林及び高美で行われた情報伝達訓練を実施し、防災に強い地域づくり【防災】
- D 若林の盆踊りにてあげる花火は継承していくべき【生活】
現状実施している防災訓練の継承【防災】

深化・変化

- A こどもが集まるイベントを増やす→全世代が集まるイベントへ【生活】
イベント会場を市に作ってもらい（市）、地域がイベントを起こす（地域）【生活】
- B 地域の祭事への費用、人手の助成を市が主体となつて行う【生活】
名鉄駅の高架化に伴い、若林駅周辺に飲み屋が欲しい【生活】
車がなくても（運転できなくても）駅、ショッピングモールまで行く移動手段の確保【移動】
- C 例大祭に部活等の理由で参加ができない人がいる→公休日にする【生活】
ボランティアを有償化し、人が集まりやすい環境を作る【生活】
こどもに地域の祭事について知ってもらうために学校にてワークショップ等を行う【生活】
- D こどもを中心としたイベントを増やすべき【生活】
若林に特急列車が止まってほしい【移動】
逢妻男川を利用した体験をし、多世代交流+水の危険さを知ってもらう【生活・自然・防災】

4 その他

- (1) 令和5年度 若林地域会議の予定〈省略〉

★次回開催

第7回定例会：令和5年10月27日（金）午後7時から 場所：若林交流館多目的ホール